

良質な教育環境づくりを推進する北薩の教育

元気ですか！ 元気があれば何でもできる！
いくぞ～！ 1・2・3・ダァー！

北薩教育事務所 管理課長 外園 賢治

表題は先日お亡くなりになった、アントニオ猪木氏（父親は出水市出身）の代名詞となっている言葉です。

猪木氏はプロレスラー引退後も、参議院議員としてスポーツの振興を中心に御活躍されました。

元気とは？

「心身の活動の源になる気力」と言われています。

元気だからこそ、仕事も私生活も充実し、何でもできるんだと思います。

元気があれば、嫌な仕事でも黙々とこなすことができますが、元気がなければ、嫌な仕事ははかどらないものです。

元気があれば、趣味に時間を忘れ、食事を摂ることも忘れ、没頭しますが、元気がなければ、楽しめないものです。

趣味は？と聞かれることがありますが、私は車・バイクを運転し、気分転換しています。もちろん、管理課長として交通法規を遵守し、スピードには細心の注意を払っております。

たまにですが、鹿児島島の素晴らしい文化である芋焼酎によるダレヤメ（疲れを止める）でも気分転換しています。

別の方法として、「元気ダァー！」と自分に言い聞かせ、思い込むことも気持ちを高める上で大切なことです。

今年度も半分が終了し、折り返し地点を経過しました。ほとんどの学校においては、一大行事である運動会・体育大会も終わり、落ち着いた雰囲気で行われていることかと思えます。

ここで、さらに今一度、元気を出して前（上）を向いて進みましょう。

そのことが、子どもたちの前に立ち、導く教師としていい見本になると思えます。

やっぱり、先生が元気であることが、学校や教室に活気が出る源ではないでしょうか。

令和4年度全国学力・学習状況調査結果

【学力調査】

平均正答率 (%)

	小学校6年				中学校3年			
	地区	県	全国	全国差	地区	県	全国	全国差
国語	66	66	65.6	+0.4	67	69	69	-2.0
算数・数学	63	63	63.2	-0.2	45	47	51.4	-6.4
理科	67	67	63.3	+3.7	48	49	49.3	-1.3

【学習状況調査（児童生徒質問紙）】

(%)

質問項目	小学校			中学校		
	地区	県	全国	地区	県	全国
学校に行くのは楽しいと思えますか。	56.7	54.1	51.7	54.2	48.3	45.8
自分にはよいところがあると思えますか。	31.2	32.4	39.4	27.1	29.1	36.0

本地区の学力の概況は上のおりです。小学校は、国語、理科が全国の平均を上回っており、学校の取組の成果が結果に表れています。中学校においては、国語、数学、理科全て全国平均を下回っていますが、過去の結果と比べると、全国との差が縮まっています。そこで、自校の分析結果を基に、課題のある教科や領域について、全職員で指導方法の改善について考え、児童生徒に「分かった。できた。」を実感させる授業づくりに努め、北薩地区の児童生徒の確かな学力の定着を図っていきましょう。

学習状況調査の結果から、「学校に行くのは楽しい」と回答している児童生徒は、全国や県と比べると高いです。しかし、「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒は、全国や県と比べると低いです。児童生徒自身が自分のよさに気付く…なかなか難しいことですが、私たち教師が児童生徒の「よさ」に気付き、認め励ます働きかけを積極的に行っていきましょう。

自分の運転に過信・慢心はありませんか？

管内では、教職員による速度超過違反が立て続けに発生しています。速度超過は自他の命にかかわる重大な事故につながります。日々の通勤で何も起きていないからといって、自分の運転に自信をもち過ぎていたり、漫然運転になっていたりしませんか。法定速度を守って走行しているか常に確認することはもとより、穏やかな気持ちとゆとりをもって運転できるとよいですね。心や体が疲れている状態で運転すると、集中力や注意力、判断力が鈍ってしまいます。そのようなときは、休憩してリフレッシュしましょう。

地区ICT活用研修会（オンライン）

9月6日に、地区ICT活用研修会を北薩教育事務所からオンライン配信で実施。

最初に、県教育庁高校教育課の中村太一指導主事から県の施策や現状を説明していただいたあと、各学校の取組として、脇本小学校の西柳教諭と水引中学校の前平教頭に実践事例を発表していただきました。

最後は、グループ協議で、各学校の成果と課題を共有し、改善策等の意見交換が活発に行われました。

Google フォームでのアンケートの中には「移動時間が不要で、オンラインは大変ありがたい」、「1人1台端末の持ち帰りのルール作りに役に立ちそう」、「他の先生に研修内容を伝えたい」などの意見が見られ、限られた時間の中で内容や方法を工夫して、今後につながる研修会となりました。



【オンライン配信の様子】

地域が育む「かごしまの教育」県民週間

本県では、家庭・学校・地域社会のより一層の連携と協力の下に、県民一人一人が鹿児島島の教育について考える気運を高め、本県教育の充実と発展を図るために、11月1日から7日までを地域が育む「かごしまの教育」県民週間としています。

また、この県民週間を幅広く普及させ、全県的な活動として推進するためにポスター原画・標語を募集しています。今年度は、ポスター原画の部に72校、標語の部に91校から応募をいただきました。優秀賞以上を受賞した作品と学校を紹介します。

【ポスターの部 最優秀賞】

「園児のみんな ぼくたちはツルレンジャー！」

出水市立鶴荘学園
6年 時吉 悠太 さん
※ 右の作品です。

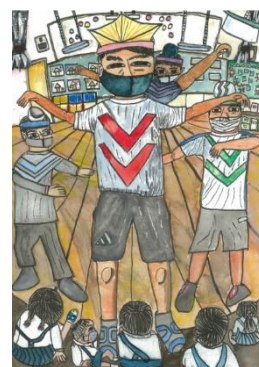
【標語の部 優秀賞】

「地域の人と 知りたい
聞きたい 学びたい」

出水市立出水小学校
4年 松田 咲菜子 さん

【学校賞】

出水市立鶴荘学園



地区フレッシュ研修他校種参観Ⅰ（特別支援学校）

7月から延期していた研修会を10月7日に出水養護学校で開催し、地区内の高等学校5人を含む54人が参加しました。

奥校長先生の講話から始まり、研究協議では、教頭先生、高等部主事の先生から具体的な助言をいただいたり、昨年度実施できなかった施設参観を児童生徒の下校後に行ったりしました。

「合理的配慮と基礎的環境整備が大切だと思った」、「学び方と教え方のミスマッチこそ児童生徒の学習に対する困難さを感じる一因となる」、「教師の特性、自分を見つめることが大事」、「できないを伸びしろだと考えるようにしたい」、「キャリア教育の重要性を感じた」など初任者の振り返りから、障害のある児童生徒への指導を学ぶ貴重な機会となったことが分かります。



【研究協議の様子】

全学校でできる不登校未然防止の取組

～「魅力ある学校づくり調査研究事業」の成果を生かした発達支持的生徒指導～

「魅力ある学校づくり」とは、全ての子供たちが、明日も明後日も来たいと思える学校にしていける取組です。

そのために、下図の「居場所づくり」と「絆づくり」を工夫し、児童生徒の意識調査を基に、3サイクルで点検・修正していきます。

発達支持的生徒指導を進める取組であり、本年度は、川内北中学校が国立教育政策研究所の指定を受けて取り組んでいます。

